

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第20回『「綽々たる余裕」～「ブレない人物の訓練」～』

今朝（2020年8月29日）の新聞記事は「安倍首相 辞任発表」で、満載である。筆者は、今から、代表を仰せつかっている「南原繁研究会 第9回夏期研究発表会」（学士会館に於いて）に向かう。「時代を動かすリーダーの 清々しい胆力」としての「人間の知恵と 洞察とともに、自由にして 勇気ある行動」（南原繁 著の「新渡戸稲造先生」より）の文章が 鮮明に蘇る 日々である。「1. 幅の広さ 2. 弾力性に富む 3. 洞察と識見のひらめき」である。筆者は、若き日から、「南原繁」の「政治哲学」を学び、「がん哲学」の提唱に 至ったものである。

最近、筆者は、混迷する現代社会に於いて「本物の強さ」は、「コロナショックから、私たちは 何を学ぶべきだと 先生は 思われますか？」などなどの取材、質問を受ける。まずは、「過度な自粛ムード vs 軽度な自粛ムード」の違い。そして、勝海舟(1823-1899)の、『世間の騒擾(そうじょう)に一喜一憂せず「綽々たる余裕」』と さりげなく 答える。「ブレない人物の訓練」こそが、まさに「コロナ時代」の実践であると考え。 タイミング良く、丁度「がん哲学外来さいわいカフェ in 茨城・筑西」代表の 海老澤規子 氏から 絵葉書が送られてきた（次ページ）。まさに、「本当にいいものは ゴミ箱の中にある」（次ページ）の 体験の時では なかろうか！



本当にいいものは
ゴミ箱の中にある

2020.8月
イシイモの花

出典「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」樋野興夫 29